

2030年ビジョン実現に向けて

鳥取県生協 第9次中期方針

(2021年～2023年)

テーマ 「未来へかけるコープづくり」

～「くらしの協同」を実現するための基盤づくりの3年間～



はじめに



鳥取県生協は、2020年6月の総代会で、「鳥取県生協の2030年ビジョン」を決定し、「～とともに生きる～ 笑顔と思いやりでつながり夢があふれる「くらしの協同」を実現します」をテーマに、2030年のくらしと社会、鳥取県生協のありたい姿を掲げました。

2020年度は、2030年ビジョンの決定を受けて第9次中期方針を策定する年となりますが、私たちを取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、格差と貧困等の継続的な課題とともに、2020年から世界中に広がった新型コロナ

ウイルス感染症により、これまでになく厳しさを増し将来に対する不安の声も多くあがっています。情勢がかつてないスピードで大きく変化し、将来の見通しがますます見えにくくなっている中で、従来の中期計画とは位置づけを変更し、2030年ビジョンの3つの柱を基本にしながら、「大きな方向性や重点となる取り組みテーマ」を幅広く盛り込んだ3年間(2021～2023年)の中期方針としました。



鳥取県生協の第9次中期方針(テーマ)

「未来へかけるコープづくり」

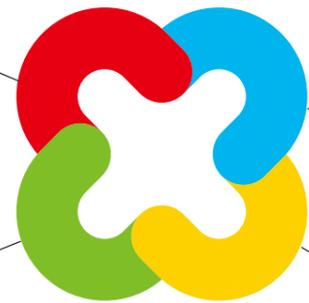
～「くらしの協同」を実現するための基盤づくりの3年間～

翔ける

未来への希望

掛ける

アイデアを掛け合わせる



架ける

人や思いをつなぐ

描ける

未来をデザインする



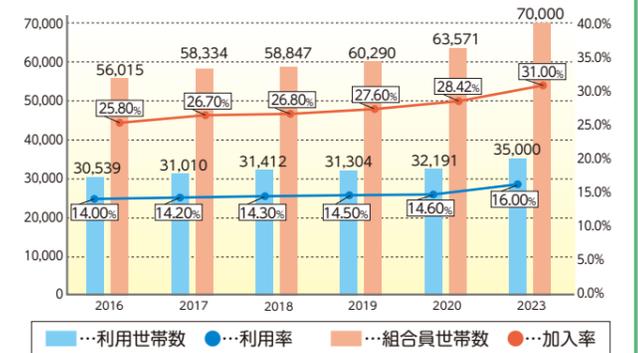
第9次中期方針の基調とテーマ

「鳥取県生協の2030年ビジョン」の実現に向けて、今回策定する第9次中期方針では、組合員のくらしや社会・経済の情勢がこれまで以上に急激に変化することを想定しながら、新たなチャレンジとともに、変えなくてはいけないこと、変えてはいけないこと、を見極めつつ、スピード感をもって対応することが重要です。そのために、何よりも、組合員、職員、県民、一人一人の声、地域社会のニーズを大切に、鳥取県生協への期待や要望をしっかり受け止めてそれを形にしていこうこと(「協同組合」としての本質)をあらためて基軸に置きます。そして、「未来へかけるコープづくり」をコンセプトに、2030年ビジョンに掲げた「くらしの協同」を実現するための基盤を構築していく3年間の方針とします。

2023年に向けた主な指標

- 鳥取県内で共同購入事業を利用する世帯率16%を目指します。(2020年度平均14.6%)
 - 2020年度平均32,191世帯 → 2023年度平均35,000世帯
 - 21～23年…101.5～102%伸長継続
- 夕食宅配の1日あたり利用食数2000食を目指します。(2020年度平均食数約1,601食)
 - 21～23年…105%伸長継続
- コープ共済(新あいあい・火災共済含む)の保有件数38,000件を目指します。(2021年2月時点35,067件)
 - 21～23年…103～104%伸長継続
- 組合員世帯数70,000世帯、鳥取県内世帯加入率31%を目指します。(2021年2月時点63,571世帯28.42%)
 - 各年純増2,500世帯
 - 21～23年…103～104%伸長継続
- 経常剰余率2%以上を目指します。(2020年度予算0.7%)

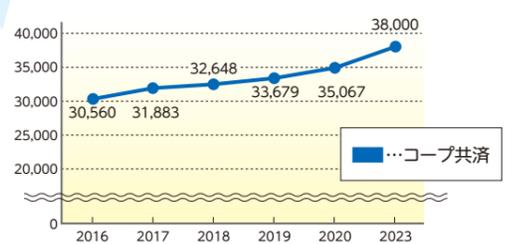
利用世帯数及び利用率・組合員世帯数と加入率



夕食宅配(1日平均件数)



コープ共済



*上記の指標を2023年の到達イメージとして共有しつつ、各年度の計画数値については、各年度方針での具体化を踏まえた上で決定します。

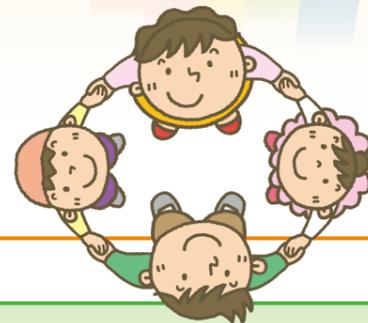


▶ 2030年ビジョンの3つの柱に基づく重点課題

- 1 地域の人々、諸団体・協同組合や行政とのネットワークを大切にして、一緒になって地域の課題解決をすすめます。
- 2 障がい者や高齢者、生活困窮者などを地域全体で支える取り組みとともに、福祉の担い手としても活躍できる環境づくりをすすめます。
- 3 子どもたちが安心して生き活きと夢を持って笑顔でくらす社会をつくるため、地域での見守りや安心して子育てできる環境を広げます。

- 4 災害に対する復興支援や防災・減災につながる学びを広げ、過去の教訓を継承し、思いやって助け合い復元力のある地域社会づくりを推進します。
- 5 被爆・戦争体験と平和の想いを次世代に継承し、核兵器廃絶と世界平和に向けた取り組みをすすめます。
- 6 環境面におけるエネルギー排出総量削減や環境負荷削減の取り組みなどを通じて、環境保全や地球温暖化防止に向けた学びと実践を積み重ねます。

- 7 「鳥取県ユニセフ協会」などと連携しながら、飢餓や貧困のない世界の実現に向けた活動を推進します。
- 8 持続可能な生産と消費のために、「誰かの何かの笑顔につながる消費」(エシカル消費)を広げていきます。



ビジョン② 持続可能な社会づくり

人々がつながり合い、助け合い、平和で持続可能な社会づくりを推進します



ビジョン① 全ての世代が安心できる くらしづくり

組合員の多様なくらしへのお役立ちと「安心」につながる事業を創造します



- 1 デジタル分野での機能強化など、便利で、楽しく、利用しやすい商品企画・案内・注文・配達方法を実現し、多様な世帯に選ばれる共同購入事業を創ります。
- 2 組合員どうしのつながりを大切に、多様な生活スタイルやニーズをサポートできる班利用や個人利用、法人利用を地域に広げます。
- 3 ココストーションは、地域の中での憩いや交流の場づくりとともに、配送効率向上の視点でも位置付けて拡大します。

- 4 商品供給の品質向上の充実強化とともに、持続可能な共同購入事業の構築に向けて、物流の最適化や手数料収入のあり方を見直し、収益構造を維持、強化していきます。
- 5 「安心・安全」を基本に、組合員のくらしと健康に貢献し、産直や地産地消などの視点を大切にした“生協だからこそ”の商品を、組合員活動とも連動して学びながら利用普及します。
- 6 あらゆる世代や世帯が便利に利用でき、くらしと食の安心をお届けする夕食宅配事業を作り上げます。

- 7 助け合いの気持ちを大切に、将来にわたって、幅広い世代にお役に立てる共済・保険事業へと発展させます。
- 8 組合員と職員が一緒になって、鳥取県内の隅々まで組合員の輪を広げる運動を展開します。
- 9 生協の事業活動を広く社会全体へ発信し、社会的認知度を向上させます。



- 1 多様な組合員の関心事について楽しく学び役立つ組合員活動を広げるとともに、組合員の誰もが安心して参加しやすい仕組みづくりや、活動・組織の中心的な担い手の育成をすすめます。
- 2 職員一人一人のくらしや想いを尊重しお互いを認め合う、働きやすい職場風土をつくります。

- 3 職員のやりがい・成長につながる人材育成制度の再構築や処遇改善の検討を継続するとともに、次世代を担う職員の育成・登用を積極的にすすめます。
- 4 公正で民主的な組織体制を構築し、コンプライアンス経営とともに安定的に剰余を確保できる健全な経営を確立します。

- 5 地域社会やくらしのニーズに即した新たな事業を検討し、可能な事業から開始します。



ビジョン③ 誰もが生き活きと輝く 鳥取県生協づくり

組合員活動の広がりや、役職員の学び合いを大切に、未来へと続く健全な経営を実現します



みんなの想いをかたちに ～第9次中期方針ができるまで～

策定にあたっては、「第9次中期方針検討委員会(2020年8月設置)」を中心に、総代・職員アンケート(下記参照)の内容なども踏まえて協議を重ねました。アンケートには新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日常生活が大きく変化したなど、新しい生活様式に戸惑いながら暮らしておられる様子をうかがい知ることができました。また、職員からは組合員さんからいただいた感謝の声に対して、期待に応えたいという職員の気持ちも書かれていました。委員会では、2030年ビジョンを基にして、これからの3年間でどのように取り組んでいくべきか、活発な議論が交わされました。委員会にて取りまとめた内容を2021年1月の定例理事会に答申し、コープのこんだん会(2021年2月)、春の総代会議案事前検討会(2021年5月)等での報告を経て、第71回通常総代会(2021年6月)での提案を行います。

第9次中期方針アンケート結果

新型コロナウイルス感染症により、暮らしに大きな変化が起きています。そこで、新型コロナに起因する生活の変化を中心に、組合員アンケート及び職員アンケートを実施し、暮らしの現状や生協への期待を調査しました。全体結果は2018年度組合員意識調査での調査結果と合わせて分析をし、中期方針策定の参考としました。

実施概要 ● 組合員及び職員アンケート

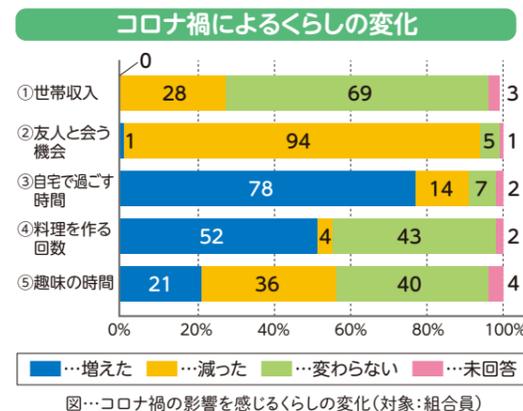
対象	組合員 248名(※第70期総代より) 職員 263名(2020年7月末時点の正規・非正規)
調査期間	2020年7月29日(水)～8月14日(金)
調査内容	1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う暮らしの変化(※職員へは感染症拡大に伴う業務状況の変化) 2. 2030年ビジョン1～3に沿って期待すること

1 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う暮らしの変化(職員:業務変化)

組合員 「影響がある」が86%と多くの方に影響があったことを伺えました。「影響はない」という回答も11%ありました。

職員 78%が「影響がある」と回答しました。影響を感じた方多くは、生協の商品利用が増加したことによる業務変化や、感染症対策の実践などについてあげています。

2 影響を感じる暮らしの変化について



組合員 ●高齢者の両親と同居しています。人とのコミュニケーションの場がめっきり減り、二人とも老化に拍車がかかっているかんじです。
●マスク、消毒用アルコールの不足からくる混乱
●県外にいる子どもたちが“帰らない”という。少し寂しい。

職員 ●改めて生協に対する期待が高い事を実感できた。コロナ過の中で、生活が一転し、生活をする事自体が難しくなった方も多くいる中、仕事をさせて頂ける環境がある感謝の気持ちと多くの組合員さんへ商品をお届けして生活を支える事に繋がっている事に対して職員としての誇りをより一層感じる事ができた。
●今まで以上に健康管理をするようになったため、普段何気なくしていた行動も見直す事が出来た。コロナウイルスに感染しない、させない事を心掛け、検温、マスクの着用、配送中や帰着後の手洗いうがいを徹底するために、毎日声掛けを行なっている。

2 2030年ビジョン①～③に沿って期待すること



ビジョン①への声

組合員 ●交通の不便な地域での買い物は大変さが増してきます。いかに生協と地区がつながりを創っていくか今後の課題であり必要性を感じます。
●子育て世代やお年寄り世帯がより利用しやすい生協をアピールしてほしい。

職員 ●共同購入として、毎週の商品受け取りが組合員さんの情報交換の場としての機能があると思います。そこから生協の広がりや、「つながり」を作っていける事業をめぐることが必要だと思います。
●ご年配の方々から注文書やカタログが見にくいと多数の声があります。そういった方々の利用点数が少なくなったり注文自体諦めたりしている方がおられるため、65歳以上の方の利用点数が多い商品に掲載したカタログや記入枠の大きな注文書お年寄りにも利用しやすい環境改善をお願いしたいです。



ビジョン②への声

組合員 ●SDGsの実現にむけて、身近なことからコツコツと実践する姿勢を組合員が率先してほしい。
●防災・減災に繋がる学びを増やしてほしいです。

職員 ●各自でできること、小さな目標を定めて実践していけたら良いと思う。
●牛乳等の商品を利用し、リサイクルに出すことで再生活を意識しています。分別も心がけています。

ビジョン③への声

組合員 ●組合員活動を広げるために各地域にみんなが集まれる場所を作って欲しい。
●生産者・組合員・職員がみんな元気で笑顔で生活ができる事が大切です。

職員 ●組合員の為に役立ち、自分の意見、考えを遠慮なく言えるようないきいきとした職場作りを行い、みんなと一緒に成長出来るようにしたい。
●誰もが生き生きと活動できるには、組合員だけでなく職員が成長(学習)できる環境が必要です。現在の生協学校の継続や生協内資格制度など、いろいろ考えて。

第9次中期方針検討の策定にあたって

2030年ビジョンを具体化するために、第9次中期方針の検討委員会の委員長として関わらせていただくこととなりました。コロナ禍で、日々の情勢が大きく変化する中、3年後を見通すことは、委員の皆さんをはじめ私自身にとっても難しいことでした。

中期方針を作成するにあたって組合員アンケートと職員アンケートを実施しました。頂いた声の多くはコロナに関する内容でした。

検討委員会ではアンケートで出された声や、2030年ビジョンを柱として、“ともに生きる”～笑顔と思いやりでつながり、夢があふれる「暮らしの協同」を実現します～を具体化するために、委員が意見を交わし検討を行いました。第9次中期方針のメインテーマは“「暮らしの協同」を実現するための基盤づくり”とすることを決め、3つの柱に沿って議論を進めました。

中期方針が組合員の生活とかけ離れないことを心がけ、見通すことの難しい3年間の想像し、実現したい“夢”も語りあい、検討委員会の総意として答申案をまとめました。

この中期方針を具体的に進めていくことが、コロナ禍を前向きに生きる指針となればと願っています。

第9次中期方針 検討委員会 委員長 高倉 美香



みんなで
めざそう！



2030年ビジョン実現に向けて

鳥取県生協 第9次中期方針
(2021年～2023年)

発行日／2021年3月

発行／鳥取県生活協同組合 総合企画室